

リレー随筆

## 量と質ではどちらが大事か

鹿児島大学病院 神田 佳樹

今回リレー随筆を担当させていただきます神田佳樹と申します。鹿児島大学病院を基幹とした2年間の研修期間を終え、2020年4月より鹿児島大学病院脳神経内科医局に入局し現在医師3年目として勤務させていただいております。

これまでの先生方の書かれた随筆を拝読させていただくと、ご自分の趣味などとても興味深い話が多く、楽しく読ませていただきました。引き受けたのはいいものの私は随筆など書いたこともありませんし、私には到底人にお話しえるような趣味はありませんので、仕事について私が感じていることを書かせていただこうと思います。

私が医師として勤務を始めて最初につまずいたのが静脈採血や動脈採血でした。2年間の研修期間の中でたくさんの患者様に採血をさせていただく機会がありました。

初めて採血したときは針を持つ手が震えていたのをよく覚えています。

最初の頃は手順も曖昧なままで挑んでしまって失敗をして患者さんに怒られたこともあります。

最初は自分には決してできるようにならないかもしれないと思って諦めようかと思ったことも何度もありました。そのような中で自分がどのようにして上達してきたのかを振り返りました。それは失敗を繰り返しながらもひたすら数をこなしてきたからだと思います。

量より質が大事だとよく言われます。もちろん私もそうだと思っています。しかし、質は目に見えるものではないし、自分で質が

保たれているかどうかは分からないことが多いと思います。質を保つためにはまずは質とは何かを自分で試行錯誤して見つけることが最初の難関だと思います。そのためにもたくさんさんの失敗も含めて何度も数をこなす必要があります。

さらに数をこなすことで自分に自信がつくと思います。これだけたくさん経験してきたのだから大丈夫という気持ちで今ではのぞめるようになったように思います。そしてたくさんこなしていく中で採血をする手順を覚えて速度も速くなったような気がします。失敗をすることで周囲に迷惑をかけてしまいますが、そこから学ぶことは成功から学ぶことよりも何倍も大きいと思います。

私がとある先生から教えていただいたのは何事もtry and errorが大事だということでした。たくさんの失敗を繰り返してその中から学びを得ることが大事だと教えていただいたのをよく覚えています。私は質も大事だと思いますが、まずはそれ以上に脱初心者のために量をこなすことが大事だと思います。

2年間の研修期間を終えて医師として勤務する今でもわからないことやできないことだらけです。採血のみならずいろんな手技を経験してきました。また手技に限らずともわからないことやできないことだらけの毎日です。そのような中でも採血と同じようにtry and errorの気持ちを忘れずに日々業務をこなしていくように心がけています。私は3年目になった今でもなるべく患者さんの採血を自分でするように心がけています。失敗して恥ず

かしい思いや辛い思いをしてしまうこともありますが、負けずに繰り返しています。

ただ、たくさん数をこなせばそれでいいというものでもないのも事実です。反復練習をして、それを振り返ること、上手な人のモデルを見つけてそれを目標にしたりまねしたりすること、また上達するためにどうすればいいかを常に考えることが重要な思います。

今年は新型コロナウイルスの感染が拡大している中で、医療者として働いてあります。その中で私が思うことを書こうと思います。医療従事者であることを告げると感謝やねぎらいの言葉をいただくことがあります。ありがたい言葉だと思う反面、自分が特に何かできている訳でもなく、正直自分自身の身を守ることで精一杯でありこのような言葉に対して申し訳ない気持ちになります。医療関係者としてはこのような感謝やねぎらいの言

葉にふさわしい行動ができるように努力したいと思っています。新型コロナウイルスの感染の流行が少しでも早く終息することを願うばかりです。

拙い文章となってしまいましたが、最後まで読んでいただきありがとうございます。随筆を書くことを依頼された際には自信がなかつたですし、正直あまり気が進まなかつたのですが、実際に書いてみると文章の書き方など学ぶことも多くあったように思います。このような貴重な機会をいただけたことに感謝致します。

次号は、今村総合病院 伊井 誠先生のご執筆です。

(編集委員会)